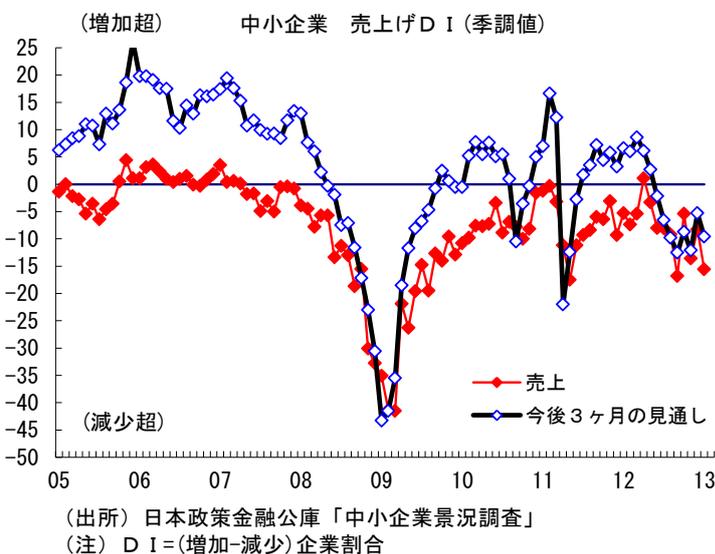
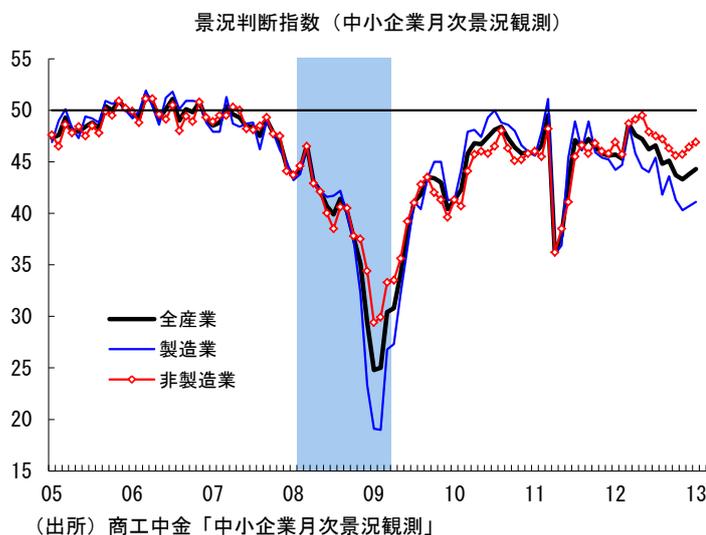


指標名：中小企業の業況(2013年1月)

発表日2013年1月29日(火)

～景況感は持ち直しへ～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 大塚 崇広
TEL : 03-5221-4525



○景況判断指数：景況感は持ち直しへ。円安や経済対策が先行きへの期待を高める

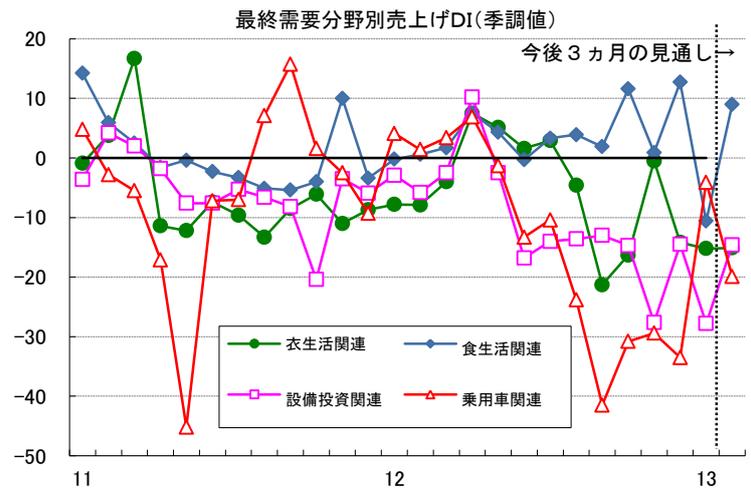
商工中金から公表された1月の「中小企業月次景況観測」(調査時点：1月上旬)の景況判断指数(1000社調査)は、全産業で44.3(12月：43.8)と2ヶ月連続で上昇した。景況判断指数は昨年3月をピークに軟調に推移してきたが、ここへきて持ち直しつつある。減少していた輸出によりやく下げ止まりの動きがみえてきたことに加え、エコカー補助金終了後の国内自動車販売の減少も歯止めがかかってきており、こうした国内経済の底打ちの動きが足元の景況感を支えているものとみられる。また、2月の景況判断指数は47.3と一段の上昇が見込まれている。特に、製造業は46.2(1月実績：41.1)と先行きに対する期待が大きい。足元の円安の進展や新政権の経済対策が先行きへの期待感を高めているようだ。

一方、日本政策金融公庫から公表された「中小企業景況調査」(調査時点：1月中旬)の売上げD I(季節調整値)は▲15.6(12月：▲8.3)と低下した。こここのところ振れの大きな動きが続いているものの、均してみれば国内経済の底打ちの動きを反映して春頃からの低下に歯止めがかかっており、今後3ヶ月の見通しも底打ちしつつある。最終需要分野別にみると、乗用車関連の持ち直しが明確になってきたことが目立つ。設備投資関連が依然低調に推移していることが懸念されるものの、5月以降大幅に落ち込んでいた乗用車関連の持ち直しは国内景気にとって明るい材料だ。

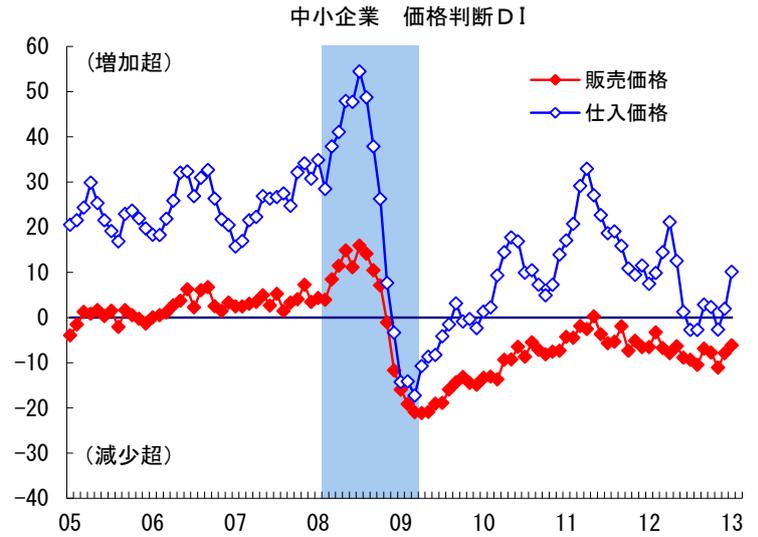
○円安による原材料価格の上昇を国内景気の回復が吸収できるかが注目される

このように中小企業の景況感は輸出の底打ちや自動車販売の下げ止まりなどを反映して持ち直しつつあり、足元の円安や経済対策等によって先行きへの期待も高まっている。景況感が期待通りに大幅に回復していくかは疑問だが、それでも海外経済の回復や円安を背景とした輸出の持ち直しや経済対策によって改善を続ける可能性は高い。ただし、円安については輸出環境の改善といった好影響がある反面、原材料価格の上昇といった悪影響もある。特に価格競争力の弱い中小企業は価格転嫁が難しく、収益の圧迫要因になりかねない。

円安による原材料価格の上昇を国内景気の回復が吸収し、利益を拡大させていけるかが注目される。



(出所) 日本政策金融公庫「中小企業景況調査」
 (注) DI=(増加-減少)企業割合



(出所) 日本政策金融公庫「中小企業景況調査」
 (注) DI=(増加-減少)企業割合

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。